

第28回相模原市行財政構造改革本部会議 会議録

日時 令和6年3月6日（水）午後4時30分～午後5時10分

会場 第1特別会議室

出席者 市長、石井副市長、奈良副市長、大川副市長、渡邊教育長、市長公室長、総務局長、
財政局長、危機管理局長、市民局長、健康福祉局長、こども・若者未来局長、環境経済局長、
都市建設局長、中央区長、南区長、議会局長、教育局長、行政委員会事務局長、
消防局長、（代）緑区役所区政策課長

1 行財政構造改革プラン（第2期）について

- 事務局より、議題について資料に基づき説明。

- 14ページの図10について、経営評価委員会からの意見を踏まえ、注釈を付け加えたが、幹事会においては、図のタイトルで既に「イメージ」と記載していることから、敢えて注釈をつける必要はないのではないかと方向性でまとまったところである。ただし、最終的な判断は本部会議に仰ぐという結論になったことから、この場で意見があればお願いしたい。（石井副市長）
- 経営評価委員会からの意見を踏まえ、事務局としてこの記載がないと誤解を招いてしまうといった意図があつて追加したものと推察していたが、そういった特段の意図がないのであれば敢えて記載しなくても良いのではないかと。（危機管理局長）
- 経営評価委員会では、主には表の縦軸を変えてもらいたいといった意見であったが、その修正は難しいことから、苦肉の策でこのような形にしたものである。（財政局長）
- 注釈の表現が「実際の予算額等とは異なる」となっているが、表に予算額は示されておらず、誤解を招く恐れがあることから、注釈は無い方が良く考える。（総務局長）
- この注釈は削る形にする。（石井副市長）

<主な意見等>

- 9ページの下から2行目に、「工業、農林業、商業」という順番になっているが、「工業、商業、農林業」にするとよりすわりが良いように感じる。（環境経済局長）
- 同じ箇所、これまで「観光」を産業に位置付けずに、市長公室に移管した経過があるのにも関わらず、「観光」が産業に入っていることに違和感がある。市として「観光」は産業であるといった認識なのか。市として観光分野を経済で捉えるのか、シティプロモーションとして捉えるのかで異なってくる。「観光」が宙ぶらりんになっているような印象があり、きちんと整理されていないのではないかと。（奈良副市長）
- 総合計画の位置付けとの齟齬が生じないか。（石井副市長）
- 総合計画の「分野横断的に取り組む重点テーマ」の「雇用促進対策」における書き方がこの表現になっている。（政策課長）
- 総合計画の策定当時は「観光」を経済部が所管していたことから、このような表現になっているのではないかと。その後、総合計画を改定しておらず、この表現のままになっているのではないかと。（財政局長）
- 総合計画の部分にも影響してくることから、そこまで対応するという前提であれば、この表現を修正することは構わない。（石井副市長）
- 総合計画に合わせるのであれば、この表現が自然であるが、実際の組織や施策は異なっていることからねじれてしまっている。（奈良副市長）
- 「観光」という言葉をどこか他に入れられるか。（石井副市長）
- 「本市が特に重点的に力を入れる取組」の「中山間地域対策」の記述の中にも「観光」という言葉が入っていることから、「雇用促進対策」の記述における「観光」は削除してしまっても説明は付くのではないかと。（市長公室長）
- 表現の修正については、事務局で検討する。（石井副市長）
- 5ページの注釈において、3行目に「決算時に赤字にならないよう」という表現があるが、その表現には違和感がある。この部分が無くても意味は通じるのではないかと。（奈良副市長）

- パブリックコメントにおいて、長期財政収支においてこれだけの赤字が出ているのにも関わらず、決算時には黒字になっているのではないかといった意見が多くあり、経営評価委員会の公募委員からも、一般市民にとっては、決算時に赤字が黒字になるといった部分が分かりづらいのではないかの指摘があった。市としては長期財政収支が赤字であっても、決算時には赤字にならないことは当然との認識であるが、それは赤字にならないように事業の選択や調整を行った結果であるということを知りやすく表現したく、この文言を付け加えたものであるが、表現は検討したい。（財政担当部長）
- この部分は丁寧に書きすぎているのではないか。一方、14ページの図10については複雑で若干理解しづらい表現になっており、極端すぎるのではないか。（奈良副市長）
- 注釈は分かりやすく、本文はどうしても行政的な表現になっており、分かりづらい部分にはなるべく注釈を付けるようにしている。（財政局長）
- 赤字決算という言葉は一般市民にとっても馴染みのある表現で分かりやすいが、歳出超過という言葉は一般市民には分かりづらいことから、そういった表現も含め検討する。（石井副市長）
- 3月21日の定例記者会見において、行財政構造改革プラン（第2期）（以下「プラン」という。）を公表する予定であることから、承知しておいて欲しい。（市長公室長）
- プラン公表後は、職員に対してどのように示していくのか。（危機管理局长）
- 市民に対しては、市民説明会を夏頃に予定しているが、職員向けには、所属長向けや担当者向けの研修について、財務セミナー等を活用しての実施を検討している。（財政局長）
- 議会に対しては、どのように説明していくのか。3月定例会議は3月19日に閉会し、その後の3月21日に説明するというのは感覚的に如何なものか。次の6月定例会議まで、議員としては本件について質問できないことが気になる。（奈良副市長）
- 3月21日の朝に全議員に配布予定であるが、既に議会へは全員協議会で説明し、意見をもらっている。今回はパブリックコメントの結果を受けての報告という形で考えている。（財政局長）
- プランについては、昨年12月に全員協議会を開催して議員へ説明しており、その後の代表質問や一般質問で質問する機会をつくるなど手続きは踏んでいる。（石井副市長）
- 3月21日の定例記者会見前に全議員に対して、プランのデータを送付するのか。その際は、全員協議会の時点からの変更点などを説明するのか。（総務局長）
- 内容的には細かな文言修正であることから、議員に対しては、本日の本部会議のような説明までは必要ないと思っている。（石井副市長）
- 今後の予定を記者会見で聞かれた際に、市民説明会を実施する方向で答えるのであれば、今後のスケジュールなども示しておいた方が良いのではないか。（総務局長）
- プランの概要をまとめたペーパーに、今後のスケジュールを加えれば良いのではないか。（石井副市長）
- プランの概要をまとめたペーパーなどは、関連する部署の職員向けにもしっかりと周知してもらいたい。（教育長）
- 本日の意見を踏まえた修正については、事務局一任とさせてもらう。（石井副市長）

2 その他

- この本部会議におけるプラン（第2期）に係る議論は終結とする。今後は、市長決裁を経て、3月21日に定例記者会見にて公表予定であるが、各局においては、局内の総務室等を通じて局内への周知をお願いしたい。（石井副市長）
- 市長からの挨拶の後、閉会した。

以 上